



【おうち英語】インプットとアウトプットの両輪

おうち英語は自転車に乗ることに似ているかと。

ペダルをずっと漕ぎ続けていかないと
自転車は止まってしまうように、
おうち英語も一旦始めたら
子どもの英語力をある程度のところに持っていくまで
ずっと続けていかなければ
子どもの英語力の成長も止まってしまう。

そして、一輪車だとふらふらしてしまって
長い間漕ぎ続けることが難しいように、前輪と後輪、
つまりおうち英語で言うならば
【インプット】と【アウトプット】の両輪をバランスよく回していかないと、
うまく前に進んでいくことができません。

ついでに言うなら、
乗り慣れるまで補助輪を付けたり、
後ろから少し支えてあげるところなんかも、
おうち英語が軌道に乗るまでいろいろな情報・アドバイスや教材を求めていたり、
親が最初は手助けしていくところなんかも似ているかもですね。

今日は【インプット】と【アウトプット】、
おうち英語の要ともなるべき
その二つの柱にスポットを当てて少しお話してみようかと思います。

よろしければお付き合いください♪

■目次

- インプットとアウトプットは別物ではない
- インプット、本当に足りてますか？
- わが家の4割ルールとは・・・
- 子どもが自走できるようになると楽♪

●インプットとアウトプットは別物ではない

時折、

「今は英語のインプットに専念しています。」

「わが家はアウトプットはまだですがインプットは4、5年続けています。」

というお声を耳にすることがあります。

確かにおうち英語のみならず、

英語学習において、「卵が先かニワトリが先か」論争は論じる余地がないくらい、
まず先に【インプットありき】であることは間違いないと思います。

おうち英語は、自宅の中に英語に触れられる環境を多く作り、
母国語方式で英語を身に着けていくことなので、
子どもが赤ちゃんから言語を身に着けていくプロセスを考えれば、
大量のインプットがまず先に必要になることは明らかです。

しかし子どもというのは、

日本語でも英語でもどの言語でも、
ずーっと地蔵のように黙っているかと思ったらある日突然流暢に言葉を話し始める、
というものではありませんよね。

まずは喃語と言われるような発話の前段階から始まり、
1語文、2語文という形で発話を進化させていきます。

ずっとインプットだけを黙々とし続けているのではなく、
実はアウトプットもその時の子どもの能力でできる範囲で自然と始めているのだと思います。

わが家のおうち英語を振り返ってみても、

わが家は親による英語の語り掛けというものはほとんどやらず、
オンライン英会話レッスンにアウトプットをお願いするスタイルを取ってはきましたが、
オンライン英会話のレッスンを始めるまで、
一切娘と息子が英語というものを口にしなかったというわけではありませんでした。

レッスンを始める前から、まずは簡単なところで、
リンゴの絵を指さしながら"Apple!!!"とすることから始まり、
耳で覚えた英語の歌をそれっぽく歌ってみたり、
洋書絵本で読んだお話を一人遊びの時間に
お気に入りの人形などを使ってお話を再現しようとする際に、
それらしい英語を口にしてみたりと、
そんな形のアウトプットの片鱗はオンラインレッスンをする前から見られていました。

人の言語習得プロセスを考えていくと、
「今はインプットに専念する時期!」「アウトプットはまだ早い!」
と決めつけてしまうのは、
いろいろな意味で子どもの英語の芽を摘んでしまうことになるのではないかと思ったりします。

むしろある一定期間以上のインプットを続けているのに、
然るべき反応が子どもから感じられない場合は、
インプットそのものに問題があるのではないかと見直すべきで、
厳しいことを言うと
「今はインプットに専念する時期だからアウトプットはまだ早いよね～」
と言っているのは向き合わなければならない問題から目を背けてしまっているだけの気がします。

例えば半年など、
ある一定の期間を英語のインプットに費やしているのに、
何らアウトプットの反応が見られないときには真摯にその事実を受け止め、
インプット内容等を精査する必要があるのではないのでしょうか。。
(※年齢を考慮することはもちろん必要です。
ここでは4~5歳以降にアウトプットが進んでいないことを想定してお話しています。)

●インプット、本当に足りていますか?

娘が生まれて以来、
今日に至るまで家で英語を聞かない日はなかったのではないかと思うわが家。。
来る日も来る日も生活のどこかに英語がありました。

子どもたちが小さかった頃、
わが家では日本語と英語のその比率を6:4を目安に与えてきました。

それは過去の note においても書き記してきたのですが、
ここ最近どうも【4】という数字が私が伝えたい数量よりも
少ないイメージで伝わってしまっているのではないかと思うようになってきました。

主宰するオンライン英会話スクールで、
現在おうち英語実施中の方で不安をお感じになっていたり、
お悩みをお持ちの方に、少しでも心を楽しんでもらうお役に立てればと、
僭越ながらコンサルをご提供させていただいたりしていますが、
そここでご相談いただく内容に耳を傾けていると、
「う〜〜ん、それはインプットが足りていないのではないのでしょうか・・・」
と率直にお答えせざるを得ないケースによく遭遇するようになってきました。

今回はインプットとアウトプットを自転車の車輪に例えていますが、
少ないインプットしか子どもに与えないというのは
「ものすごく小さい車輪の一輪車」に子どもを乗せているのと同じだと思います。

全然前に進みませんし、一輪の不安定さゆえ、乗りこなすことがとても難しく、
安定性に欠けたおうち英語になってしまうかと思います。

具体的に「乗りこなすのが難しく、安定に欠ける」という内容を説明しますと、
つまり、子どもの母国語と英語のバランスが
子どもの成長とともにどんどんアンバランスになっていき、
子どもに英語を拒否されるようになって
日々英語を続けていくことが難しくなってくるという意味でもあり、
インプットが少なければ、
子どもの中の英語と英語が結びつくことが困難になり
英語力も安定しない状態になってしまうという意味でもあり。。

このような状態でアウトプットを求めてオンラインレッスンをしても、
英語がわかっているのかわかっていないのか微妙な反応が続くだけ、、、になってしまいますよね。

一輪車に無理やりもう一輪、
急ごしらえで付け足そうとしても、それは無理ですね。バラバラになってしまいます。

そういう意味で、インプットがとても大切というのは間違いありません。

英語を母国語方式で身に着けるという意味で、

インプットは実のところ相当必要です。時間も質も両方がとても重要になってきます。

しかし、このインプットの時間と質を本当の意味で満たせていない場合も散見されます。

「気の向いたときに少し英語の歌を聞かせている」

「幼稚園・保育園で英語の時間がある」

「特定の教材を持っていて時々子どもが遊んでいる。見ている。」

という程度では、

とてもとても必要とされるインプットと時間と質を満たすことはできないと思うのですが、

意外に

<「英語」というものが子どもの身近にあるというだけの状態>

に安心してしまうケースが多いように思っています。

この安心にプラスして、

「今はインプットに専念する時期。アウトプットはまだまだ先で大丈夫～♪」

という考えがあると、

おうち英語は全く前進していかない一輪車に乗っているようなものになってしまうかと思います。。

少ないインプットを漫然と続けて、

首を長くしてアウトプットをずーっと待っても、

残念ながらその日は来ず、

子どもがすっかり大きくなってしまってから

「アレ～～～?!なんでーーーー!!!おうち英語やってたのになあ～～～💧」

となっては、これこそ後の祭りですよ。。

お子さんの英語を母国語方式で体得できる臨界期は

すでに過ぎてしまっているかもしれません。。

母国語方式で言語が習得できる臨界期は

学説上は10歳前後とされています。

しかしこれは以前の note にも書きましたが、

これは脳の可塑性の話であって、

その語学を習得できる環境がしっかりと用意されるという条件が

前提になっての話になります。

実際に日本で生活していたら、
子どもが10歳前後になったときに、
母国語方式で英語が習得できるだけの環境を確保できるとは
インターにでも進学しない限りは到底考えず辛く、
そういう意味では、おうち英語における英語習得の臨界期というのは
かなり早い年齢になるのではないかと私は個人的に思っております。

今日は若干、辛口トーンで書いてしまっているところがあるかもしれないのですが、
「大丈夫ですよ〜」と社交辞令的に耳障りの良いことだけ言って、
効果が出ないかもしれないのにそれを見て見ぬふりをするのも嫌なので
ちょっと厳しめに書いております。。。ご容赦ください。。。

●わが家の4割ルールとは・・・

わが家が子どもが小学校に入学するまで
ルーティンとしていた日本語:英語 6:4ルールについて
もう少し具体的にお話ししてみたいと思います。

比率という漠然とした形ではなく、時間で書いてみたいと思いますが、
わが家の子どもたちは今もですが寝るのが大好きな子たちでした・・・。
幼児期は夜も早く寝て、お昼寝大好きという感じで24時間中、
13時間は寝ているような生活でした。。。

起きている11時間のうち6:4で4を英語に割っていたことになりますので、
単純に計算して英語に割っていた時間は4時間半ぐらいですね。

海外アニメ視聴を連続ではありませんが、
2時間ぐらいの時間を動画からのインプット時間として設け、
細切れ時間に手持ちの英語教材を使わせてみたり、
洋書絵本を一緒に読んだり、かけ流しで隙間時間にも
英語に触れられるようにしたり・・・という感じです。

これをほぼ毎日幼児期は続けていました。

今思い返すと我ながらクレイジーだと思いますが、
家族旅行に行ったときも行き返りの移動時間も
英語でのDVD視聴、英語の歌を聞く時間に充てたり、
宿泊先にもMP3プレーヤーを持っていき、
部屋でゴロゴロしている時間にもかけ流しをしたりして、

毎日のルーチンをどこでも維持できるようにしていた記憶があります。。。それくらいインプットには時間を掛けていたということです。

アウトプットの方もほぼ毎日オンラインレッスンを25分入れることで確保し、家族で娯楽に出かけた先でも、毎日オンラインレッスンを受けている時間になったら移動の車中でもレッスンを受けたり、BBQ や花火をしているところにもオンラインレッスンを持ち込んでしまうというようなことをしていました。

できるだけ英語をハレのものにせず、「空気のように毎日そこにあるもの」とするように工夫して続ける努力をしていたのです。

そうしないと毎日4~5時間の時間確保は難しかったのです。。。。

●子どもが自走できるようになると楽♪

子どもが自転車に乗れるようになるまで補助輪を付けたり、練習に付き合ったりといろいろと大変ではありますが、ある程度まとまった時間、適切な練習を重ねれば、たいていの方は自転車に一人で乗れるようになりますよね。

それと英語も同じで
ある程度インプット&アウトプットで英語が軌道に乗れば、子どもは成長とともに自分で話したい内容のインプットを自分で求めるようになっていきます。

幼児期の頃は6:4ルールで、かなり親の私が頑張ったのですが、小学生以降はその時間確保が平日は難しくなったことと、子ども自身でインプットとアウトプットの両輪をある程度回していくことができるようになってきたため、小学生中学年くらいで後ろの荷台から私もほぼ手を離して自走するように促した感じです。

習慣に持ち込むためには
それなりの苦勞・モチベーションが必要なのも事実ですが、習慣に持ち込めさえすればとても楽なのも本当のところですよ。

今高校3年になった娘は、大学受験勉強真っ最中ですが、

その勉強の合間のリラックスタイムに Youtube などでお気に入りの海外アーティストや俳優のトークショーを英語で見たりしています。

そこでインプット時間を勝手に確保してくれている感じですね。

アウトプットに関しては、未だ親の私がオンラインレッスンの予約を入れるなどのサポートしていますが、最近ではオンラインレッスンの内容にも一切関知なくなり、受験勉強合間の娯楽として純粋に楽しむようにしてもらっています。

自分の努力なしに自然に英語がわかるようになった子が、親元から離れたとき、自分で英語力の維持に努めていってくれるのか少し心配していましたが、英語で情報が拾えるメリットを娘は十分体感してくれているようですので、恐らくこの力を失わないように将来も自分でなんとかしていくのではないかと最近の娘を見ていると思います。

習慣になってしまうと何事もラクですよ。

その意味では、「雀百まで踊り忘れず」であってほしいと願います。

人が生まれながらに持つ言語習得の能力をフルに生かすためにも、おうち英語を軌道に乗せていくためにも、幼児期の然るべきタイミングを逃さず、インプットとアウトプットの両輪をバランスよく回すことがとても大切だと思って書き始めた今日の note ですが、書き進めるうち、子どもが自転車に乗れるようになる時期とおうち英語の臨界期が時期的に合致するような気がするな~と思ったり。

自転車とおうち英語、案外共通点あるかも?!
そう無理やり話をまとめて今日の note を終わろうと思います(^)

お読みいただきありがとうございました!

2021年6月30日投稿 note「【おうち英語】インプットとアウトプットの両輪」より引用